

プレスリリース

報道関係者各位

2025年11月17日

 高松自動車学校
株式会社T・D・S

産学連携で若年層の漫然運転防止を目的に 高松自動車学校と穴吹カレッジが啓発動画を制作

高松自動車学校（株式会社T・D・S 高松市上天神町646番地／代表取締役：富家嘉頭）は、若年層の交通事故防止を目的として、専門学校穴吹デザインカレッジ（ネット動画クリエイター学科）と連携し、スマートフォンで視聴できる交通安全啓発動画を制作しました。本取り組みは、香川県内で発生する交通事故の約4分の1が依然として若年層（16～24歳）であることに着目し、特に免許取得直後や運転に慣れてきた頃に多い「ながら運転」「漫然運転」「わき見運転」の危険性を同世代の視点から分かりやすく伝えるものです。学生が撮影・編集を行い、当校指導員が監修した動画は、令和7年10月より公開されており、若年層が自らの運転を見つめ直し、安全意識を高めるきっかけづくりを目指しています。



撮影時の様子



実際の映像教材のキャプチャー

■今回の取り組み内容

若年層に多い交通事故の特徴である「だろー運転」「漫然運転」「わき見運転」に着目し

- わき見運転＝ゲームオーバー！？未来を守る選択肢
- タイムスリップ先生の未来警告～ながらスマホ編～
- 60秒チャレンジ！事故を回避せよ！

の3本の啓発動画を制作しました。撮影・編集は専門学校穴吹デザインカレッジ（ネット動画クリエイター学科）の学生が担当し、当校教習指導員が監修・助言を行う取り組みです。学生は企画段階から「同世代に伝わる表現」を意識し、実際の運転シーンを再現。動画は短時間で要点が理解できる構成となっており、SNSやスマートフォンで手軽に視聴できる形で制作されています。若年層が自らの運転を見つめ直すきっかけづくりを目指した内容です。

一方で、穴吹デザインカレッジの学生にとってもこの活動は、学校で学んだ映像制作の知識やスキルを実践の場で生かす貴重な機会となりました。自分が作りたいものではなく、依頼者が求める目的や意図を理解し、それを形にするというプロセスは、卒業後に社会で通用するための実践的な経験にもつながっています。

■取り組みの効果と展望

制作した啓発動画は、穴吹デザインカレッジ内に設置されたデジタルサイネージで放映されているほか、当校の入校生に対する安全意識啓発用の教材としても活用しています。既存の教材や学科教習で用いられる映像とは異なり、同世代の学生が企画・制作したことで、若者の感性や視点が反映され、より自然にメッセージが伝わる内容となっています。こうした「同世代がつくる啓発」は、若年層にとって受け入れやすく印象に残りやすいため、運転に慣れ始めた頃に訪れる油断や慢心、感情に流されそうになる瞬間に、この学びを思い出してもらえる効果を期待しています。今後も、免許取得前・取得後を問わず若者の心に残り、行動変容へとつながる啓発活動を通じて、地域全体の交通安全向上に努めてまいります。

■地域の交通安全教育センターとしてできること

当校は、地域の交通安全教育センターとして、初心運転者の育成をはじめ、ペーパードライバーや企業ドライバーへの再教育、さらに免許取得前の世代に向けた交通安全教室など、地域の交通環境をより良くするための取り組みを行っています。昨年11月には、高松第一高等学校の生徒と香川県高松南警察署、JAFと協力し、高校生自身が出演する自転車の交通安全啓発動画を制作しました。産学官が連携して若年層に交通安全の大切さを伝えるこの取り組みは、次世代への意識づくりにつながる試みとして実施しました。

今回の取り組みでは、若年層に対する交通安全啓発の中でも、初心運転者の事故件数や事故の特徴に注目しました。特に、新たに運転を始める世代や、運転に慣れてきた頃の世代に向けて、専門学校穴吹デザインカレッジ(ネット動画クリエイター学科)と連携し、「ながら運転」や「だろろう運転」の危険性をテーマに、スマートフォンで視聴できる交通安全啓発動画を制作しました。身近なメディアを通して発信することで、同世代が自分ごととして安全運転を考えるきっかけとなることを目指しています。

■香川県内の若者の交通事故発生状況

香川県内の交通事故発生件数は、令和2年の3,722件から令和6年の2,943件へと減少しています。一方で、若者（16～24歳）が関係する事故は同期間で973件から753件と、全体とほぼ同程度の減少にとどまり、構成比はおおむね25～29%前後で推移しています。全体の事故が減少する中でも、若年層による事故は依然として全体の約4分の1を占めており、人口減少が進む中で件数の下がり幅が小さいことから、人口比で見ると相対的な事故リスクはむしろ高まっている状況にあります。

令和6年中 若者が関係した交通事故発生状況

■若者による交通事故の特徴

令和6年の若者（16～24歳）による事故原因を見ると、「動静不注視（いわゆる“だろろう運転”）」が56件、「漫然運転（考え事など）」が54件、「脇見運転」が43件で、合わせて153件（全体の約20%）を占めています。これらはいずれも、運転に慣れ始めた頃の油断や注意散漫によって生じる典型的な事故要因です。また、免許経過年数別では1年未満が145件、2年未満が100件、3年未満が104件と、取得直後から数年以内の層に集中しており、年齢別でも20歳が106件で最多となっています。こうした傾向から、高校卒業後の大学生・専門学生といった新たに運転を始める世代に対し、改めて交通安全意識を高める啓発の機会を設けることが重要だと考えています。